

項目	内容
名称	サラシア、サラシア・オブロンガ、サラシア・キネンシス、サラシア・レティキュラータ、コタラヒム、コタラヒムブツ [英]Chundan、Kathala Hibutu Tea、Ponkoranti、SO. [学名]Salacia oblonga、Salacia reticulata、Salacia chinensis
概要	サラシアは、インドやスリランカ、ミャンマー、タイなどに幅広く散在しているニシキギ科のつる性の低木で、Salacia oblonga、Salacia reticulata、Salacia chinensisなどがある。Salacia oblonga、Salacia reticulataの植物としての食経験は不明であるが、Salacia chinensisは熟した赤い実が食用とされている。また、インドの伝統医学（アーユルヴェーダ）で利用されてきたハーブのひとつで、根や樹皮を煎じたり、粉末にして利用されてきた。しかし、一般に使用されるのは野生種であることが多いため、採取した時期や産地により含有されている成分が異なる可能性が大きい。
法規・制度	■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none">・サラシア・レティキュラータ（コタラヒム/コタラヒムブツ） 茎、根：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。・サラシア・オブロンガ 根：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。・サラシア・キネンシス 茎、根：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。

■ 特定保健用食品

・ネオコタラノールを関与成分とし「食後の血糖値が高めの方に適する」保健用途の表示ができる特定保健用食品が許可されている。

成分の特性・品質

主な成分・性質

・サラシア・レティキュラータは、サラシノール、コタラノール、マンギフェリン、カテキンなどを含む ([PMID:11360491](#))。
・幹部にトリテルペン、セスキテルペン、リグナン、カテキン ([PMID:12951446](#))、プロアントシアニジン (101) などを含む。

分析法

・サラシア・レティキュラータ中のサラシノール、コタラノール、マンギフェリン、カテキンをHPLCにより分析した報告がある ([PMID:11360491](#))。
・サラシア属中のネオサラシノール、ネオコタラノールを、イオンペアクロマトグラフィー付LC-MSにより分析した報告がある ([PMID:20981499](#))。

有効性

ヒト 循環器・呼吸器

調べた文献の中に見当たらない。

の 消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

の 糖尿病・内分泌

RCT

・2型糖尿病患者66名 (平均61.3歳、アメリカ) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、試験食 (炭水化物110 g、脂質12 g、タンパク質18 g) とともにサラシア (*Salacia oblonga*) 抽出物240 mgまたは480 mgを摂取させたところ、糖代謝マーカー (摂取後180分までの血糖ピーク値、血糖AUC、インスリンピーク値、インスリンAUC) 上昇の抑制が認められた ([PMID:17616771](#))。

・健康な成人39名 (平均25.7±0.9歳、アメリカ) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、炭水化物150 gを含む高炭水化物食を3日間摂取後、試験食 (炭水化物75.4 g、脂質14 g、タンパク質20 g) とともにサラシア (*Salacia oblonga*) 抽出物500、700、1,000 mgを単回摂取させたところ、1,000 mg群で糖代謝マーカー (摂取後90分の血糖、摂取後120分のインスリン、血糖AUC、インスリンAUC) 上昇の抑制が認められた。一方、500 mg群では摂取後30分に急激な血糖上昇が認められた ([PMID:15635348](#))。

・健康な成人43名 (平均23.5±0.6歳、アメリカ) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、炭水化物≥150 gを含む高炭水化物食を3日間摂取後、試験食 (炭水化物82 g、脂質14 g、タンパク質20 g) とともにサラシア (*Salacia oblonga*) 抽出物1,000 mgを単回摂取させたところ、糖代謝マーカー (摂取後45分、60分、90分、120分の血糖、摂取後60分、90分、120分、150分のインスリン) 上昇の抑制が認められた ([PMID:15975493](#))。

・糖尿病前症かつ軽度～中等度の脂質異常症の男女29名 (インド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、生活習慣指導とともにサラシア (*Salacia reticulata*) 葉抽出物 (11名、平均43.00±1.53歳) または根皮抽出物 (9名、平均51.66±3.56歳) を500 mg/日、6週間摂取させたところ、葉抽出物群で空腹時血糖値、根皮抽出物群で空腹時血糖値および血中脂質 (LDL-C) が低値を示した。一方、血中脂質 (TC、VLDL-C、HDL-C、TG)、経口糖負荷試験 (OGTT) に影響は認められなかった ([PMID:23767865](#))。

・空腹時血糖が高めの成人または2型糖尿病患者62名 (平均50.1±9.3歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、サラシア (*Salacia reticulata*) 抽出物150 mg含有飲料を単回摂取させ、おにぎり (約523 kcal) を摂取させたところ、糖代謝マーカー (摂取30～120分後の血糖、摂取30、

60、120分後のインスリン)の上昇抑制が認められた(2011017544)。

- ・空腹時血糖が高めの成人または2型糖尿病患者62名(試験群31名、平均50.3±9.1歳、日本)を対象とした二重盲検無作為プラセボ対照試験において、サラシア(*Salacia reticulata*)抽出物150 mg含有飲料×2回/日、12週間摂取させたところ、糖代謝マーカー(HbA1c、空腹時血糖、グリコアルブミン、インスリン)に影響は認められなかった(2011017544)。
- ・健康な成人男性35名(平均34.08±6.5歳、インド)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、砂糖75 gとともにサラシア(*Salacia chinensis*)根エタノール抽出物200 mg、300 mg、500 mgを単回摂取させたところ、300 mg摂取、500 mg摂取で糖代謝マーカー(摂取後180分までのインスリンAUC)の低下が認められた。一方、血糖AUCに影響は認められなかった([PMID:27803937](#))。
- ・健康な成人27名(18~45歳、インド)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、サラシア(*Salacia chinensis*)根茎水アルコール抽出物1,000 mgを摂取した後、高炭水化物食(600 kcal)を単回摂取させたところ、糖代謝マーカー(摂取後90分の血糖)上昇の抑制が認められた。一方、糖代謝マーカー(摂取後30分、60分、120分、180分の血糖)に影響は認められなかった(PMID 24124287)。
- ・健康な成人32名(平均45.4±10.1歳、日本)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化比較試験において、米飯250 gとともにサラシア(*Salacia reticulata*)茎熱水抽出物(サラシノール0.5 mg含有)含有食を摂取させたところ、糖代謝マーカー(摂取後120分の血糖、摂取後60分、90分、120分のインスリン、血糖AUC、血糖Cmax、インスリンAUC)上昇の抑制が認められた。一方、糖代謝マーカー(インスリンCmax)に影響は認められなかった(2018212370)。
- ・空腹時血糖値が高めの成人32名(平均51.1±9.2歳、日本)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、米飯200 g(炭水化物69.4 g)とともに、サラシア(*Salacia chinensis*)幹熱水抽出物(ネオコタラノール0.221 mg含有)を摂取させたところ、糖代謝マーカー(摂取後30分の血糖、摂取後30分、120分のインスリン、摂取後3時間までの血糖AUC、インスリンAUC)上昇の抑制が認められた(2010330488)。
- ・過体重または肥満の成人48名(平均32±12歳、アメリカ)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、食事(275kcal、炭水化物50%)とともに、サラシア(*Salacia chinensis*)300 mgもしくは500 mgを単回摂取させたところ、いずれも糖代謝マーカー(血糖AUC、インスリンAUC)低下、食欲の抑制(アミリンAUC低下、ペプチドYY上昇)が認められ、300 mg摂取においてグレリン上昇が認められた。一方、500 mg摂取で摂取90分後の食欲指標4項目中1項目(空腹度)の上昇が認められた([PMID:28805670](#))。
- ・健康または空腹時血糖値が高めの成人48名(平均46.0±9.0歳、日本)を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ比較試験において、サラシア抽出物含有飲料15 mL(サラシノール28.95µg含有)を摂取させた直後に負荷食(米飯200 g、ふりかけ1 g)を摂取させたところ、糖代謝マーカー(摂取30分後の血糖、摂取後120分までの血糖AUC)の上昇抑制が認められた(2008136851)。

生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

脳・神経・
感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

免疫・がん・
炎症

RCT

- ・健康な男性30名(試験群15名、平均54.0±0.6歳、日本)を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、サラシア(*Salacia reticulata*)根茎熱水抽出物を朝食・昼食前に各60 mgと夕食前に120 mg、4週間摂取させたところ、免疫の指標3項目中2項目(T細胞増殖指数、免疫学的年齢)の改善と、腸内細菌

(Bifidobacterium類)の増殖、Bacteroides類、Clostridium類の減少が認められた ([PMID:26630568](#))。

骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
------	-----------------

発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
-------	-----------------

肥満	調べた文献の中に見当たらない。
----	-----------------

その他	調べた文献の中に見当たらない。
-----	-----------------

参考文献

- (102) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
[\(PMID:11360491\) 薬学雑誌 . 2001 May;121\(5\):371-8.](#)
[\(PMID:17616771\) Am J Clin Nutr. 2007 Jul;86\(1\):124-30.](#)
[\(PMID:15635348\) J Am Diet Assoc. 2005 Jan;105\(1\):65-71.](#)
[\(PMID:15975493\) Nutrition. 2005 Jul-Aug;21\(7-8\):848-54.](#)
[\(PMID:12845381\) Braz J Med Biol Res. 2003 Jul;36\(7\):931-5.](#)
[\(PMID:23470874\) 食品衛生学雑誌 . 2013;54\(1\):56-64.](#)
[\(PMID:16901601\) Food Chem Toxicol. 2006 Nov;44\(11\):1868-74.](#)
- 101) Tetrahedron Lett. 1967;8(26):2441-6.
[\(PMID:12951446\) Chem Pharm Bull \(Tokyo\). 2003 Sep;51\(9\):1051-5.](#)
[\(PMID:23767865\) J Med Food. 2013 Jun;16\(6\):564-8.](#)
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
[\(PMID:26630568\) PLoS One 2015 2 10\(12\) e0142909.](#)
(2011017544) 日本病態栄養学会誌. 2008;11(3):271-81.
[\(PMID:20981499\) J Nat Med. 2011 Jan;65\(1\):142-8.](#)
(2010330488) 薬理と治療. 2010;38(6):545-50.
(2018212370) Glycative Stress Res. 2017;4(2):117-23.
[\(PMID:28805670\) Nutrients. 2017 Aug 12;9\(8\):869](#)
[\(PMID:27803937\) J Diabetes Res. 2016;2016:7971831.](#)
[\(PMID:24124287\) Pharmacogn Mag. 2013 Oct;9\(36\):344-9.](#)
(2021359448) 日本腎臓学会誌. 2021;63(6-E):692.
(2008136851) 健康・栄養食品研究 . 2008;10(2):23-36.
[\(PMID:17566623\) Food Chem Toxicol. 2007 Oct;45\(10\):1954-62.](#)
[\(PMID:18397819\) Food Chem Toxicol. 2008 Jun;46\(6\):2165-72.](#)